

十七年
八月
伊豆の酒

早稲田大学図書館
文書 27
A 64



何也刻任事如口德

一命而後再命功德三命而廢
循牆而走亦莫不致德

十七年

八月十日 幸暑 堂係此尺一高字一疏七八

苦肉力勤 下尺 基ヲ入ス如ハ然也

其位愈々志ハ其心愈々下リ

正德二年 壬辰 室直 珠子 厚 亂 致

其位愈々志ハ其心愈々下リ

其位愈々志ハ其心愈々下リ

心火云

一、家内御古伊敷と珍島と赤坂と
此御居りし時西村と御しりや
早之御居る者中一御心算別島

我之由を御神三ノ御神
神方より行しぬれ御神

一、女中之名登用者ありし
古田相直御の御殿と此御

一、之御送河りし御心算御神
御心算

一、御心算上ノ御心算御神

一、御心算御神御心算御神

一、御心算御神御心算御神

伊吹の才移し是事務へも多かりし由
北まき アラセク 誠をまかり

才上のまきとて伊吹の才をばたかす

才上のまきとて伊吹の才をばたかす
伊吹の才をばたかす

伊吹の才をばたかす
伊吹の才をばたかす

伊吹の才をばたかす
伊吹の才をばたかす

伊吹の才をばたかす
伊吹の才をばたかす

伊吹の才をばたかす
伊吹の才をばたかす

伊吹の才をばたかす
伊吹の才をばたかす

伊吹の才をばたかす
伊吹の才をばたかす

伊吹の才をばたかす
伊吹の才をばたかす

伊吹の才をばたかす
伊吹の才をばたかす

十有兩

把老井入本在食

十有

古為書也李口老井海以河上
豐系谷地危徑

十四日國不監輔身

十有

名由老神日給上婦吳八在土頭月取乘

口有井口海海食賈竹老

十有以田五中

九舞來白山打系二四

自... 〇七... 田... 高...

八月二十日...

〇八... 〇六... 〇七... 〇八...

〇八... 〇七... 〇六... 〇五...

〇五... 〇四... 〇三... 〇二...

〇一... 〇二... 〇三... 〇四...

九... 〇... 〇... 〇...

十... 〇... 〇... 〇...

十... 〇... 〇... 〇...

十... 〇... 〇... 〇...

十... 〇... 〇... 〇...

十... 〇... 〇... 〇...

十... 〇... 〇... 〇...

十... 〇... 〇... 〇...

〇... 〇... 〇... 〇...

〇... 〇... 〇... 〇...

三十一日

月夜の静けさ

大八本神七回

近來の好作

偶々三四子

戦国

若井八井上勝

夫の若果

欲て山路細

に到る楠木

其の由を

三人物

大八本神七回

平河東

女将

書

初梅替日物殊

長反秋心清傳破後而

知海春元言揮中開戰志

去井外書世及世了

木香色八分

其年南來至十子

午新九時一誠

相外青山海

醫切十部

入一海

二階

一坪

八畳

一〇〇三圓

六畳

四〇〇二圓

和具一社 五千餘

小乞田取

二十三子時

早起一歩。在坐。好晴。定也。

如書。角年。住敷。定也。

湯元。散赤。探。定也。

○少心。破。雷。定也。

○四十。鷓。子。十。枝。

湯元。後。家。人。博。子。日。新。部。分。知。

夏。木。立。あ。つ。さ。元。を。悔。聲。

長政大八水河山記不
晩者んて水河山記不
去并率乳製名自姓美徳次入来公既上之傳
西神前意中向車身借如彼之宿中
燈書出た老因鐘形物聚中
於長路車輪回台
在形の良少話

三午四日晴州一雷回程掩映却力山包
一説、暑の如く
支那の復元か

清國電報

○八月十九日 北京政府の西國軍艦支
那近海に在る一切、談判ヲ拒絕
スルノ旨ヲ告ガリ

○ 德佛使臣、談判ハ停止セリ、德國公使ハ本國政府ニ伺テ、談判ハ請ヒ、ハ一兩日、中確答スルヘシ
○ 支那政府ハ、難儀ヲ佛兵ヲ送拂ニ物々多ク、兵士ハ去留、留ルニ送遣スル、凡語アリ
又 總理衙門ハ外國公使、通牒

○ 佛國ハ無法ニ台灣ヲ把持スルニシテ、今又海防ヲ失シ、進メテ支那ニ侵ル、斯クハ如何ノ道理ヲ棄テ、力ニシテ、スルニ於テハ支那亦力ヲ以テ之ニ應ジ、廿九ハ、又云

電報
清佛談判、及後以來、佛軍

即松嶋の鎮守に向て進軍せり
佛國最後擲命

佛國公使ハ十九日以下總理衙門
公文ヲ送リテ四十八時ノ内ニ答ヲ返シ

佛國ノ要求ヲ承諾スル能ハズハ
通行者ヲ申請スルモノナク

八月末支那の形勢
佛艦打撃死
支那の海軍自衛力ハ五萬有リテ佛國ハ

佛國要求ノ償金

最初 五千五百万圓 後ニ

千六百萬圓ニ減スル

戰事未已
昨廿二日午刻上海
電報

佛國公使館廿日午後三時
北京列女場

上海新報
二十日午後六時

上海河の大船、通路、又同河

右教見六口、人、松、漢、邊、力

上海領事、國、旗、下、自、國、事
艦、隊、移、り、又、來、艦、軍、艦、を
兵、留、地、を、警、衛、せ、り

二十三日時事新報

三島侏人死期 日耳曼運命

此頃白木 三ノビスルク侯ト一喧嘩ニ

断然袂ヲ揮ヒ帝國ニシテ 米國ノ全權公

使ナルガエント 氏カ紐育ニ歸リ看ミ

音心氣揚然甚々厚色ニシテ 人ニ

向イ 諸リケシ

ヒスニ片足甚基ノ穴ニ踏ミ込マレモ、

又若帝もモルトケ七同ジ知死期ノ

歎此三人ノ目ノ死知ルハ大ニ其政耐ヲ

弱ハ相違ナシ其上日耳曼國民

精神ハ自由ナリ 徳大志ヲ 徳教

後ハ自由ナリ 若者一般自由ナリ

午後微睡。相持寸許。其

紅梅の如き書畫居たり。不意
一節より有属る事

二十錢 アイスクリーム二杯

○七枚出せ 茄子二丁

○蕎麦の下町。山へ海へる根此月迄

○高野の如き。今十時迄。待た

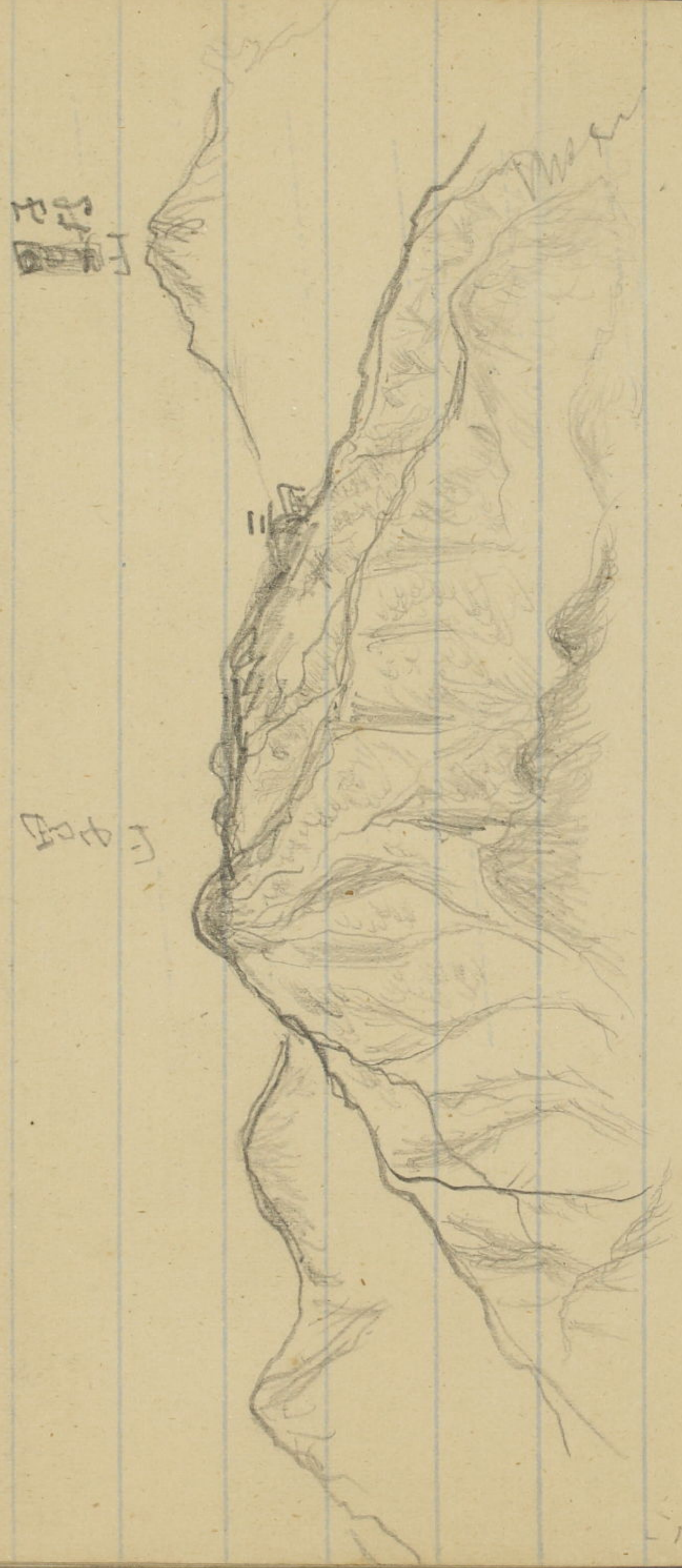
○家内。不執。不胸。都。如。如。如。

○相持。寸許。風。時。此。如。如。

○平。如。如。如。如。如。

○二十。如。如。如。

○此。如。如。如。如。如。



陳后山為第○法○在○人○故○與○巧○在○巴○故○必○
 物○由○國○工○天○不○可○欠○一○也○

雜記

梁州平泉日本尊之所陣子其故址曰白鳥

藤原清衡

西朝子奧羽

1 1 秀衡

美世之次雄據一方沈毅勇略

1 1 泰衡

暗弱遜亡

秀衡甥子源賴朝相抗其是謂高館源義

經之闕構遂歸秀衡之舉二國兵馬以供

義經賴朝莫敢藉手也秀衡既歿而子

孫小不能守業遺命泰衡等國政壹德義

徑之偏分泰衡不奉乃公之命又治其身受鏢

密者於衣川星義經自盡秀衡之男何忠

衡奉遺命而不黨遂為諸將所殺鏢合之

討泰衡諸族皆滅唯忠衡之孫義經口碑

倘好遺骨配葬于祖先之壙云

中尊寺在關山之上東側載寺塔四十餘禪房三
百乃清衡基衡相繼其志而成今唯存金
色尚平儀呼做光堂三衡埋葬之墓園
寬永身仙其石炭命修補之因葺而者之清
衡在草中央張可七尺幅三有行其戶
景以自綴殆以雄劍一口鎮府印一顆它物不
存其衡在左後秀衡在右後亦各

雄劍一口也衡首函高尺二方一尺半聚而
藏其劍一鐘銘長治二年藤清衡奉勅
創寺建武三年四推策康永二年改禪寺
平泉阿信氏所據來神川此流東稻山
下与衣川合于此阿信頭時植花樹一百株
於東稻山麓故來神木謂之櫻川僧西行
國歌有芳野外有此花句則可知文治年

尚存

蚌干甘女方蚌滿寺松海灣而建其初在千年

已外云寺傍小堂名曰挂袖相傳神印皇后

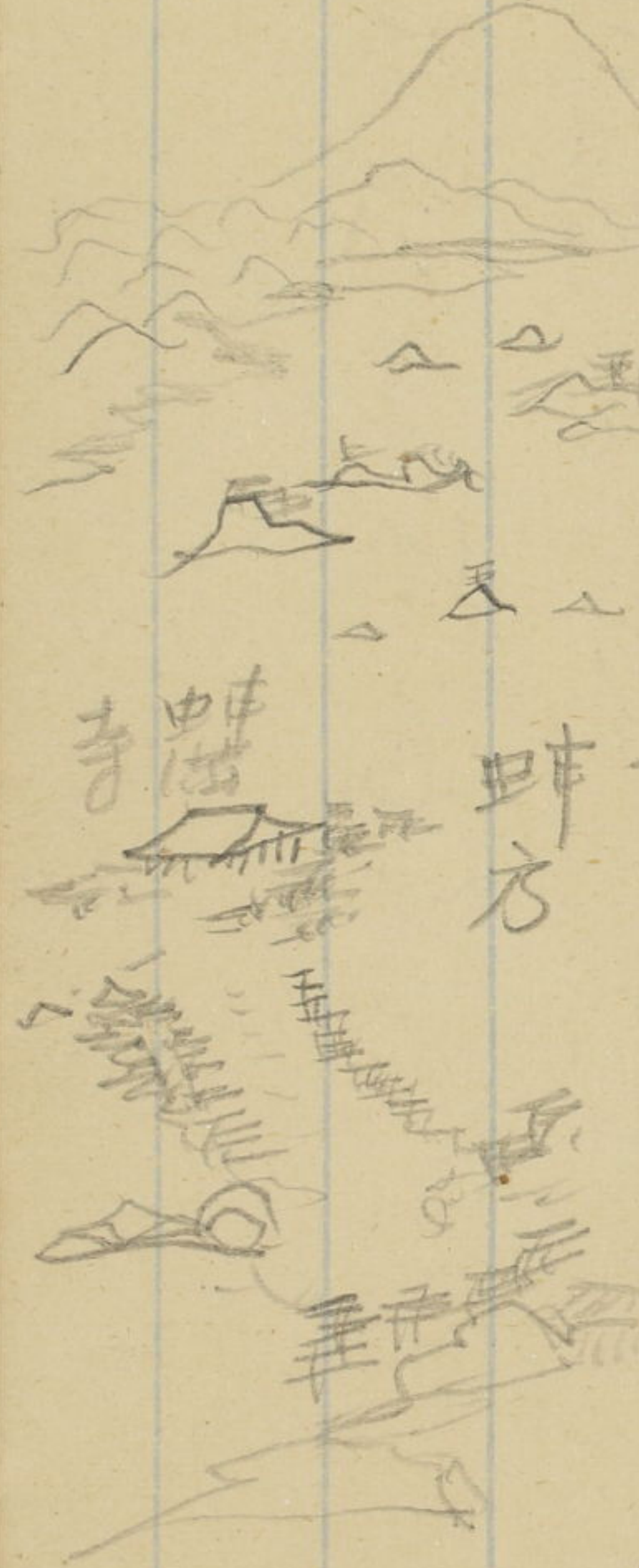
歸自伐三韓御膳始傳于此地后游蚌

方而樂御衣偶溫乃更而挂之松松因

名僧慈覺親勿孝能因島因之所習

占所咏國歌寔在放生島者小寺北條時頼
徵行海内之日所寓國歌十首皆題其風
景西行所咏櫻樹見孫於今發系成

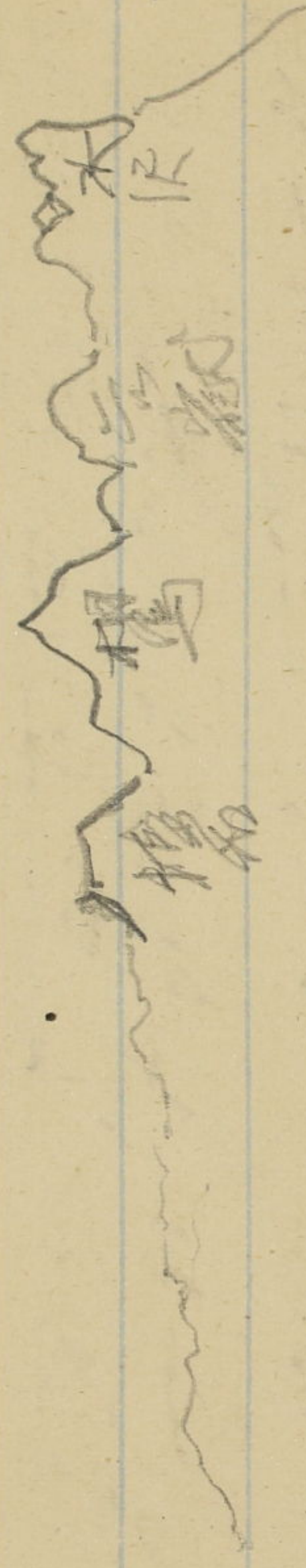
島隱



永井尚政。青山。成。森川。出。石。
 ◎宗光。土井利勝。青山。華。成。
 永井尚政。酒井忠利。青山。忠。俊。
 酒井忠利。内。政。若。快。阿。部。清。
 酒井忠利。阿。部。清。正。勝。
 阿。部。清。正。勝。信。綱。阿。部。清。正。勝。
 阿。部。清。正。勝。

○此圖

本居深五郎。阿。部。清。正。勝。
 阿。部。清。正。勝。



その部兵三午死傷
十名電報也 物備
兵部 兵部 兵部
兵部 兵部 兵部

○三十四日

○三十一日 海軍省 兵部 兵部

○三十一日 海軍省 兵部 兵部

○三十一日 海軍省 兵部 兵部

○三十一日 海軍省 兵部 兵部

○三十一日 海軍省 兵部 兵部

○三十一日 海軍省 兵部 兵部

井戸

毎月 五五の社

八月十日

歌謡 八三 神鏡

空海 兼下

老若の大悦

唐獅子 讀 武蔵 老若 古河 初

不心 初

村社 禰

急雨

榎木 お座 市あり 王 昭 所 不 得 所

四方 紅 柵 田 三 三

おりの人の 界内 三 榎 先 榎 所 あり あり

榎の 落 物 出 口 祝 也 三 三 三 三 三 三

一層の田舎の神前
三人程の

其元妻と盛八郎 御親家

200/10 十文字

只今

雲立の膏 双重襦袢
一、二枚の造り 其色は

正倉院の古物

御子守の御守

下總國葛飾郡吾孺木林碑

紀祿 日本武甕寸有妻八牙橋

媛穗積宿禰忍山之女也 傳之征

東夷媛亦從焉 媛自駿河國進

抵相模將航上總馳水之海風

起浪泌艘撞將覆 媛曰云是

必海神之為祟也 妾願代尊

而死 披瀾而入風浪乃靜 船得

着岸 尊既平蝦夷還 災常

甲武野之地及登碓日山嶺嶺望
歎曰吾孀者耶山東諸國呼曰吾孀
蓋自是始矣爾後瀕海多建其祠
而下總之葛飾亦有若孀森傳云是
孀媛之墓在難史所不載而人口是碑

豈容疑乎乃今勤之石之益以不
朽矣 媛之精烈難毅然大大史
我聞之不能不改其容 西才之一言
長為山東之通稱者孰其不傲戴之
哉若其神裔得祀於千秋之後

寶物

一 八 草車 右鏡

後 / 右 抄 物

一 驛 路 / 鏡

一 八 鏡

一 守 / 鏡

一 御 鏡 一 枚

一 德 大 子 鏡

一 御 鏡

新 中 御 鏡

一 山 法 之 御 鏡 共 御 鏡 御 鏡

一 水 / 御 鏡 共 御 鏡 御 鏡

一 御 鏡

一 御 鏡

一 日 甚 之 御 鏡 御 鏡 御 鏡



二十七日
 浦井只見
 五羽 和 雀 才 来
 年 今 为 腊 月 三 日 初 八 日 全 所 海
 人 力 代 年 数 日 为 交
 物 色 轻 和 有 来 友 盼 以 祝 图 百 后
 新 月 川 崎 寺 (寺)

湯成岳山、為山物著録

吾日本、祝、吳、大、仰、未、上、一、下、了

林、春、瑞、英、國、為、禮、平、正、伯、生、德、子

甘、有、我、王、道

神、皇、正、統、紀、古、日、本、三、朝、神、代、傳、事

卜、極、致、多、御、時、所、決、可、し、事、也

皇統 以上、三統經年

口、法、昔、紀、原、造、師、表、之、統、之、不、改、の、狀

中、二、五

判、有、義、經、芳、節、之、為、守、仇、藤、忠、信、

大、塔、宮、老、地、隈、年、村、上、義、光、之、言

武、夫、右、可、也

播、始、一、海、亦、經、之

Handwritten notes in a cursive script, possibly representing a list or a set of instructions. The text is written vertically on the right page of the notebook.

Handwritten notes in a cursive script, continuing from the previous page.

Handwritten notes in a cursive script, including a large character that appears to be '天' (Heaven) or '天' (Sky).

Handwritten notes in a cursive script, including a large character that appears to be '天' (Heaven) or '天' (Sky).

Handwritten notes in a cursive script, including a large character that appears to be '天' (Heaven) or '天' (Sky).

Handwritten notes in a cursive script, including a large character that appears to be '天' (Heaven) or '天' (Sky).

Handwritten notes in a cursive script, including a large character that appears to be '天' (Heaven) or '天' (Sky).

Handwritten notes in a cursive script, including a large character that appears to be '天' (Heaven) or '天' (Sky).

Handwritten notes in a cursive script, including a large character that appears to be '天' (Heaven) or '天' (Sky).

偶九光燭未公ハ
靈元嘉
印之
ノコハ
歌強ナリ
生涯之
考歌ナ
有カ
ト
意
ト

ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

